GEO FORUM 2026

ジオフォーラム 2026 in 静岡

More further ahead

技術発表

地すべり調査業務における地すべり移動方向の重要性
不二総合コンサルタント株式会社
久田 智也

熱赤外線映像法による吹付法面老朽化調査の事例紹介
株式会社東日
馬場 美邑・池谷 卓美

洪積台地で発生した崩壊斜面の土質定数の推定方法
昭和設計株式会社
鈴木 雄也

(一)静岡焼津線・浜当目トンネルについて
静岡県交通基盤部建設経済局工事検査課
宮本 武（元静岡県島田土木事務所工事第2課第2班長）

微動アレイ探査による工学的基盤面の推定
株式会社ジーベック
遠矢 尋

孔内傾斜計機器交換時の補正方法について
日本エルダルト株式会社
大場 椋斗

特別講演

付加体地質学 -陸上から深海へ-
東海大学海洋研究所 所長
平 朝彦

11.6

Nobember 2026年11月6日(金曜日) Friday

開催場所 グランシップ6階 交流ホール（〒422-8019 静岡県静岡市駿河区東静岡2丁目3−1）

開催時間 10:00~16:40

● 主催・(一社)静岡県地質調査業協会 ● 共催・(一社)静岡県建設産業団体連合会、(一社)中部地質調査業協会 ● 協賛・静岡県道路協会、全国治水砂防協会静岡県支部

● 問合せ先・(一社)静岡県地質調査業協会事務局 TEL.054-247-3316 FAX.054-246-9481

巻頭挨拶

（一社）静岡県地質調査業協会主催によるジオフォーラムも今年で23回目を迎えることになりました。多くの方々の支えにより毎年このジオフォーラムを開催することができる事を心より感謝申し上げます。

本ジオフォーラムは、地質調査業に対する理解の向上と当協会員技術者の技術交流と研鑽を目的として開催し、若手技術者の技術向上や、経験豊かな技術者から若手技術者への技術の継承,さらには技術者相互の交流を図る貴重な場としております。

さて、近年、全国各地で地震や豪雨、土砂災害などの自然災害が頻発し、これまでの想定を超える被害が発生しています。特に地震災害については、地震動による建築物や土木構造物の被害に加え、断層の変位に伴う地盤の変形、道路・橋梁等のインフラ施設への被害など、地質・地盤に起因する様々な現象が顕在化しています。

7月28日に発生した令和8年熊本地震では多くの尊い命が失われるとともに、地域社会や社会基盤に甚大な被害がもたらされました。犠牲となられた方々に謹んで哀悼の意を表するとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、一日も早い復旧・復興を願っております。

この地震では、活断層の活動に伴う地表付近の大きな変位や、それによる道路・橋梁等の土木構造物への被害が顕著に見られました。地盤や断層の動きが社会基盤にどのような影響を及ぼすのかを、改めて私たちに問いかけるものとなりました。静岡県では、南海トラフ巨大地震について、いつ発生してもおかしくないという認識のもと、地震・津波による被害を想定し、その軽減に向けた様々な対策が進められています。一方で、活断層による地震については、発生場所や規模を事前に正確に予測することが難しく、南海トラフ地震とは異なる視点からの備えも必要となります。静岡県内には、糸魚川－静岡構造線や富士川河口断層帯をはじめ、我が国でも重要な活断層が存在しています。特に平野部においては、地表から確認することが難しい伏在断層など、その位置や活動性について十分に解明されていないものもあります。

このような中で、私たち地質調査技術者には、災害によって生じた地盤・地質現象を正しく把握し、その原因を究明するとともに、そこから得られた知見を今後の防災・減災に生かしていく役割と責務があります。そのためには、日々進歩する調査・解析技術を学ぶだけでなく、過去の災害事例から多くのことを学び、技術者としての知識と経験を蓄積していくことが重要です。

本ジオフォーラムが、こうした知識や経験を共有し、技術者同士が互いに研鑽する場となるとともに、若手技術者への技術継承の一助となることを期待しております。そして、ここで得られた知識や技術が、将来の災害への備えや地域の安全・安心の確保につながり、私たち地質調査技術者がより一層地域社会に貢献できることを願っております。

最後になりますが、本フォーラムを通じて、発注者の皆様方と私ども地質技術者との相互理解がさらに深まり、地質調査に関する技術の向上と、その成果の社会への還元につながることを心より願っております。

なお、日頃より当協会の活動にご理解とご支援をいただいております、一般社団法人静岡県建設産業団体連合会、全国治水砂防協会静岡県支部、静岡県道路協会の皆様には、本フォーラムの開催にあたり、ご共催・ご協賛を賜りましたことに、改めて厚く御礼申し上げます。

今後とも皆様方のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

一般社団法人静岡県地質調査業協会
会長　松浦 好樹

10:00～10:10　開会挨拶（会長）
（一社）静岡県地質調査業協会 会長 松浦 好樹

技術発表

10:00～10:40　地すべり調査業務における地すべり移動方向の重要性
不二総合コンサルタント株式会社　久田 智也

10:40～11:10　熱赤外線映像法による吹付法面老朽化調査の事例紹介
株式会社東日　馬場 美邑・池谷 卓美

11:10～11:40　洪積台地で発生した崩壊斜面の土質定数の推定方法
昭和設計株式会社　鈴木 雄也

昼休憩 11:40～13:00

技術発表

13:00～13:30　（一）静岡焼津線・浜当目トンネルについて
静岡県交通基盤部建設経済局工事検査課　宮本 武（元静岡県島田土木事務所工事第2課第2班長）

13:30～14:00　微動アレイ探査による工学的基盤面の推定
株式会社ジーベック　遠矢 尋

14:00～14:30　孔内傾斜計機器交換時の補正方法について
日本エルダルト株式会社　大場 椋斗

休憩 14:30～14:50

特別講演

14:50～16:20　付加体地質学 -陸上から深海へ-
東海大学海洋研究所 所長　平 朝彦

16:20～16:30　講評
静岡理工科大学 理工学部土木工学科 教授　中澤 博志

16:30～16:40　閉会挨拶
（一社）静岡県地質調査業協会 副会長　小暮 充範

地すべり調査業務における地すべり移動方向の重要性

不二総合コンサルタント株式会社　久田 智也

1. はじめに

地すべり調査業務において、すべり面深度特定のために孔内傾斜計とパイプ歪計のどちらかを選択して観測を実施することが一般的である。孔内傾斜計の利点は地すべりの移動方向を特定できることにある。地表地質踏査や航空写真及び等高線による判別により、大まかな地すべり移動方向は推定可能であるが、実際の地すべり移動方向と異なる場合、工法によっては過剰または過小な設計となる可能性がある。本発表では孔内傾斜計観測により、想定と異なった地すべり方向が判明した地すべり調査例を紹介する。

2. 調査内容

現地踏査により頭頂部、側部、末端部において地すべり性の変状を確認した。また、露出した風化岩の走向傾斜を調査し、本地すべりの移動方向は1方向に確定できず、岩盤の傾斜方向と斜面方向のいずれかもしくは両者が関与していると考え、これらの方向の中間の方向を主測線方向と設定した。設置機器は頭部に地盤伸縮計を2基、孔内傾斜計を地すべり範囲内に2箇所、範囲外に1箇所、自記水位計を範囲内に1箇所、範囲外に1箇所とし、末端部のブロック積の亀裂にクラックゲージを設置した。

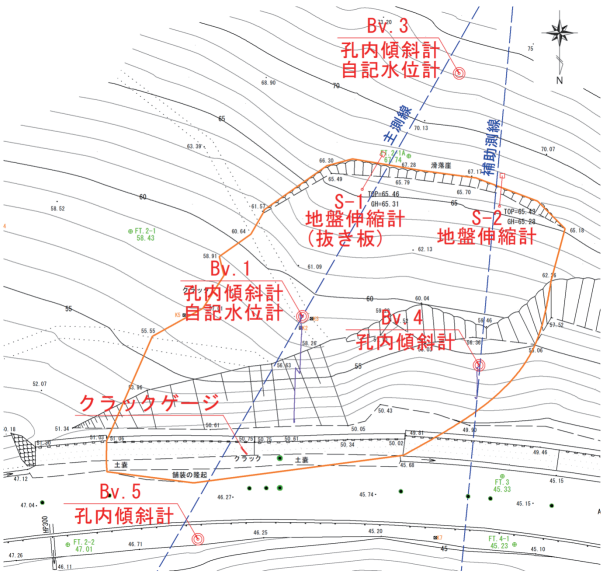


図 2-1 主測線と観測体制

3. 調査結果

当該地すべりでは200mm/日の降雨で地すべりを確認した。すべり面深度はBv.1でGL-4.67m、Bv.4でGL-2.43mであった。地すべりの方向は真北の方向であり、これは斜面方向と一致する。

4. 地すべり解析と設計

地表変状の方向や、頭部と末端部の最大変位位置の違いから地すべり方向は北東方向と推定していたが、実際は斜面方向により制約されていた。これはすべり面境界部の風化岩が土砂化しており、岩盤の傾斜方向による制約を受けないためと推測する。対策工法はグラウンドアンカーであるが、アンカー工は地すべり方向に対して平行に打設する基準[1)]に従いアンカー工の設計を行った。

5. まとめ

抑止工の多くは、地すべり移動方向により設置条件を変更する必要がある。特にアンカー工は地すべり方向を誤ると場合によっては設計アンカー力が不足する可能性がある。本業務の場合は道路直交方向に対して斜めと推測していた地すべり方向が実際は直交方向であったため、移動方向の特定により、安価なアンカー工を提案することができた。地すべり移動方向が現地踏査のみで特定できない場合は地すべり方向の特定が可能な孔内傾斜計での観測を実施すべきと考える。

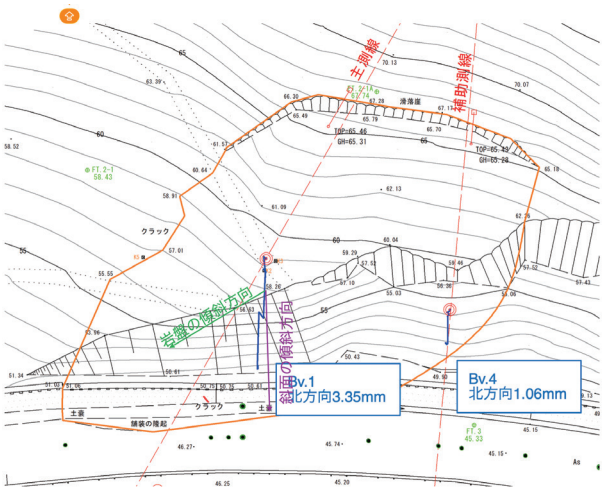


図 3-1 地すべり移動方向

引用文献
1) 公益社団法人 全国防災協会(2006)：災害復旧事業における地すべり対策の手引き

熱赤外線映像法による吹付法面老朽化調査の事例紹介

株式会社東日　○馬場 美邑 ・ 池谷 卓美

1. はじめに

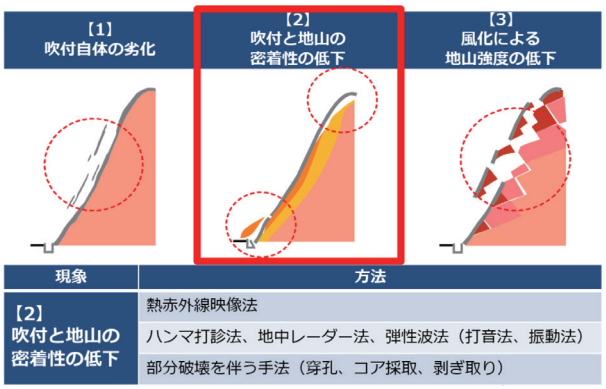
吹付工は法面保護工として古くから多用されてきたが、近年モルタル・コンクリート吹付面の剥離・剥落や崩落による災害が発生しており、最近では令和2年に西伊豆町の(国)136号に面した吹付法面において崩落が発生している。各地で吹付法面の老朽化が問題となっているため、適切な診断を行って補修補強を行う必要がある。本発表では(国)136号 伊豆市小下田で実施した吹付法面調査事例を紹介する。当該箇所は道路防災点検のカルテ対応箇所であり、亀裂の拡大や落石が確認されていた。

2. 調査内容

法面の状況(吹付のせり出し、水平ひび割れ、吹付末端部のせり出し)から、対象吹付法面の劣化機構は表-1に示す「【2】吹付と地山の密着性の低下」であると推定した。

「吹付と地山の密着性の低下」の評価には背面地山の風化範囲や空洞範囲を把握する必要があるため、表-1に示される調査方法より熱赤外線調査、打診音調査、コア削孔、ファイバーカメラ観察を実施した。

表-1 吹付法面の劣化原因・機構の区分と調査方法



現象	方法
【2】吹付と地山の密着性の低下	熱赤外線映像法
	ハンマ打診法、地中レーダー法、弾性波法（打音法、振動法）
	部分破壊を伴う手法（穿孔、コア採取、剥ぎ取り）

参考資料1)より抜粋

3. 調査結果と評価

熱赤外線調査及び打診音調査により劣化範囲の特定を行った。特定された劣化箇所においてコア採取、ドリル削孔・ファイバーカメラ観察を行い、吹付の背面状況を確認した。各結果から対象吹付法面の評価を行った。

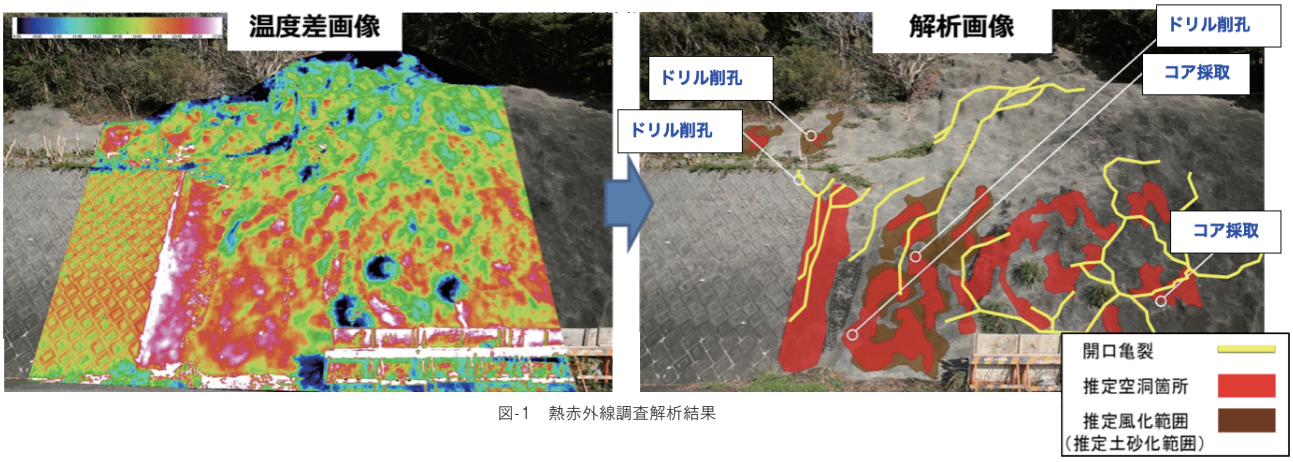


図-1　熱赤外線調査解析結果

吹付法面の評価は①健全性の評価[1)]と②劣化診断および対応レベルの判定[2)]を用いた。①調査対象吹付法面は全体に地山が風化し、吹付と地山の密着性が低下しており、法面の安定性が著しく低下していると推測され、健全度は「D(著しく低下)」とした。②対象法面は多くの地点で連続性のあるひび割れが広範囲に及び、吹付背面の空洞・土砂化範囲が対象面積の30%以上と推定されるため、対応レベルは「I(対策検討)」とした。現在、吹付補強工事が進行中である。

1)のり面診断・補修補強研究会(平成25年9月)吹付のり面診断・補修補強の手引き

2)(一社)斜面防災対策技術協会(平成28年12月)斜面対策工維持管理実施要領－点検・詳細調査編－

洪積台地で発生した崩壊斜面の土質定数の推定方法

昭和設計株式会社　鈴木 雄也

1. 業務概要

牧之原台地東側の展望広場付近において斜面崩壊が確認されたことから、法面対策工法の検討及び設計に必要となる地盤状況を確認することを目的として、現地踏査及びボーリング調査を実施し、想定される崩壊形態での強度定数（粘着力cと内部摩擦角φ）を推定した。

2. 調査内容

現地踏査の結果、幅約30m、高さ約12mの滑落崖が形成されていた。崩壊斜面上部に設置されている転落防止フェンスには変状が認められ、地盤にも緩みが生じていた（写真2-1）。また、滑落崖は玉石混じりシルト質砂礫からなり、ハンマー打撃によって容易に崩れやすく、不安定な状態であった。ボーリング調査の結果、上層から表土（砂混じり礫質シルト）、N値33～50以上の砂礫層（シルト質砂礫、砂礫）、N値42～50以上の玉石層（玉石混じりシルト質砂礫）が確認された。特にGL-1.60～4.45m間の砂礫層では、礫間充填物は細粒分の少ない細砂～粗砂を主体とし、締まりは比較的緩い状態であった（写真2-2）。



写真2-1 フェンスの変状（矢印先が著しい変状が認められた箇所）

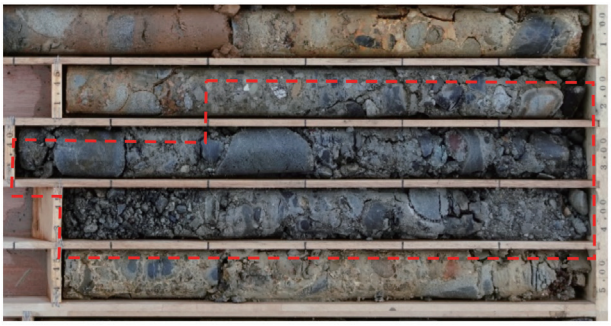


写真2-2 採取したボーリングコア（枠内は礫間充填物の締まりが緩い箇所）

3. 強度定数(c、φ)の推定手順及び適用方法

手順1)現況斜面に変状は生じていないものの、フェンスの変状および緩みが生じていることから、現況の安全率Fs=1.0として、強度定数(c、φ)を推定する。
手順2)周辺の横断図から、崩壊前の原地形を推定し、崩壊時の安全率Fs=0.98とし、崩壊面の強度定数(c、φ)を推定する。
手順3)表流水、伏流水等による強度低下を見込み、手順2)で推定した崩壊面の強度定数(c、φ)を現況断面に適用し、安定計算を行う。

4. 計算結果

手順3）で推定された円弧内を不安定土塊とし、崩壊土塊の強度定数（c、φ）とした。
円弧すべり面より深部は安定領域として、
手順1）現況の強度定数（c、φ）とした（表4-1、図4-1）。

表4-1 斜面安定検討における推定地盤定数

	粘着力 c (kN/m^2)	内部摩擦角 φ （°）	備考
推定不安定土塊	0.8	37	崩壊前推定原地形から推定
安定領域不動土塊	5	39	現況から推定

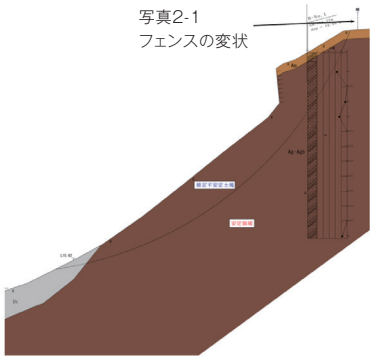


図4-1 不安定土塊ー安定領域境界

引用文献
・道路土工 切土工・斜面安定工指針（社）日本道路協会H21.6

（一）静岡焼津線・浜当目トンネルについて

静岡県交通基盤部建設経済局工事検査課　宮本 武（元静岡県島田土木事務所工事第2課第2班長）

1. 概要

（一）静岡焼津線は、平成25年10月の台風26号に伴う豪雨により地すべりが発生し通行止めとなり、脆弱な斜面を迂回する道路として浜当目トンネルが整備され、平成29年3月に供用開始となった。その後、令和6年7月2日に大崩海岸にて大規模な斜面崩壊が発見され、観測中のトンネル内のひび割れも一時的に大きく進行し、通行止めとした。その後、調査・観測を進め、有識者を交え対策工法等を検討・決定し、災害復旧事業により鋼アーチ支保工やはく落防止シート等の補強工事を行い、令和8年8月31日通行止めが解除された。



斜面崩壊全景（R6.9.4撮影）

2. 被災原因と被災状況

大崩海岸の斜面崩壊と浜当目トンネルの変状の関係については、調査・観測を進め時系列的な解析検討を行い、焼津側を土塊が一体となって剛体的な運動によるトンネルには影響が伝わりにくい地すべりブロック、静岡側を突発的な斜面崩壊に近く斜面変動がトンネルに伝わりやすい崩壊性地すべりブロックと原因を特定した。浜当目トンネルの被災状況は、静岡側の崩壊性地すべりブロック直下において、ひび割れ、浮き、はく離、はく落が発生しているが、大規模な斜面崩壊後では顕著な変動・変状は発生していない。

観測項目	観測頻度	観測結果
時系列干渉SAR解析	3-4回／年	隣接斜面を含めて顕著な変動なし
TN坑内亀裂観測・TN内空変位観測	常時監視	顕著な変動なし
地盤伸縮計・地盤傾斜計・孔内傾斜計	常時監視	顕著な変動なし
地下水位計	常時監視	顕著な変動なし（降雨に伴う水位上昇が少ない）
パイプひずみ計	常時監視	大雨時にすべり面に軽微な累積変動が確認された

3. これまでの経緯と対応

令和6年4月14日に道路利用者より、トンネル海側の側壁に浮き・はく離・はく落があると通報を受け、目視点検を開始（その後計器観測）、7月2日に大規模な斜面崩壊が発見され、斜面崩壊とトンネル変状に何らか関連するものと想定し、学識者・有識者による県道静岡焼津線「浜当目トンネル」対策検討会を6回行い、令和7年12月24日に災害査定を受け、令和8年2月から8月にかけ災害復旧工事を行い、8月31日約2年ぶりの通行止め解除となった。

4. 今後の対応

これまで地元の方々の御理解・御協力により、令和8年8月31日に通行止め解除を行うことができたが、今後も交通開放後の安全管理として、雨量や地震、トンネル内・外において様々な監視を続け、月3回の目視点検も行い、連続雨量100㎜超過、震度4以上の地震発生等により道路利用者の安全確保を図るため通行止めを行うこととしている。



トンネル内伸縮計観測状況



微動アレイ探査による工学的基盤面の推定

株式会社ジーベック　遠矢 尋

1. はじめに

超高層建築物や免震構造の建築物の地盤調査では、支持層の確認に加えて工学的基盤（せん断波速度S≧400m/s）の確認を求められることが多い。
その様な物件でボーリング調査を計画する際は、まず近隣データを収集する。しかし、周辺に大きな建物が存在しない地域では、調査深度が10～20m程度のデータが多く、工学的基盤まで到達した調査や、せん断波速度を取得したデータはほとんど存在しない。そのため、工学的基盤面の深さを把握できず、必要なボーリング調査深度の設定に苦慮するケースが少なくない。本発表では、工学的基盤の深さを必要とするボーリング調査計画において、微動アレイ探査の適用性を検証した事例を紹介する。

2. 微動アレイ探査の適用性

物理探査手法とその適否を次にしめす。

表2-1 物理探査一覧

方法	利点	課題
弾性波探査	地層境界を 比較的明瞭に 判断することができる	地盤のP波構造で 土層区分するため、 S波との相関性はない
表面波探査	S波速度から 基盤面を 推定することができる	表面波を記録する ため探査深度は 10～2m程度にとどまる
電気探査	地盤の性質の変化から 基盤の位置を 推定できる場合がある	地盤構造は 比抵抗値で区分するが、 S波速度との相関性はない
微動アレイ探査	深部のS波構造を 探査でき、 起振も不要である	人通りや車通りの 影響を受けやすい
常時微動	卓越周期から 基盤面の 概略を推定できる	S波構造を把握しなければ工学的基盤の判定は困難である

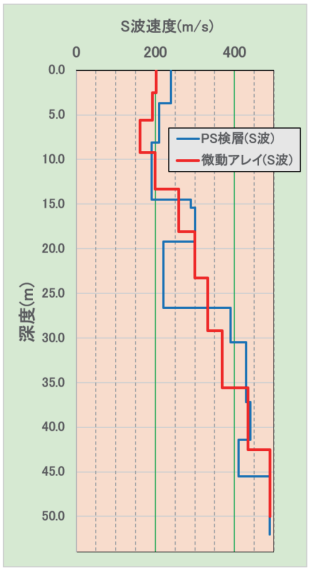
微動アレイ探査と常時微動を組み合わせれば工学的基盤を推定できることが期待される。

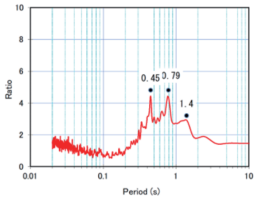
3. 検証とその結果

微動アレイ探査は工学的基盤の推定に有効と考えられるが、実務への適用には推定精度の検証が重要である。そこで、PS検層を実施したボーリング調査地点において微動アレイ探査を実施し，両者のS波速度層結果を比較した。
また，同地点において常時微動測定（地表面1秒計）を実施しその結果を，工学的基盤の選定の補助データとした。微動アレイ探査は、中心にボーリング孔、アレイ長50mのトライアングル配置とし、10点の測定器を配置した。また、GNSS（VRS）機器によりその位置座標を得た。
測定は、交通振動の少ない深夜の時間帯とし測定時間は約1時間とした。同時にボーリング孔近傍で常時微動を測定した。

4. 適用性の検証

ボーリング調査及びPS検層の結果との比較により、その実用性を検証する。





下端深度(m)	層厚H(m)	S波速度(m/s)	固有周期T_G
2.5	2.5	202	0.05
5.6	3.1	193	0.11
9.2	3.6	162	0.20
13.3	4.1	199	0.28
18.1	4.8	259	0.36
23.3	5.2	300	0.43
29.2	5.9	332	**0.50**
35.6	6.4	369	**0.57**
42.5	6.9	435	**0.63**
50	7.5	490	**0.69**

図4-1 S波構造探査結果の比較，常時微動と卓越周期

PS検層と微動アレイ探査によるS波速度層の結果を比較すると、せん断波速度S≧400m/sとなる工学的基盤層は深度30～35m以深に分布することが推定され、両者の結果に概ね一致が見られる。
また，常時微動測定のH/Vスペクトル解析では、周期0.45sと0.79sにピークが表れているので、微動アレイ探査のS波速度から算出した固有周期TGでは工学的基盤は約30m以深となり、常時微動の周期と整合性が取れる。

5. まとめ

本検討の結果、微動アレイ探査は工学的基盤の推定に有効であり、ボーリング調査やPS検層に先立つ事前調査として有効で、常時微動測定を組み合わせることによりその精度は向上することが確認された。
今後の課題として、市街地などで障害物があり適切なアレイ配置が困難な場合の測定解析精度についてもこれから検証していく必要がある。

孔内傾斜計 機器交換時の補正方法について

日本エルダルト株式会社　大場 椋斗

1. はじめに

孔内傾斜計観測で用いられる傾斜計機器は、個体ごとに固有の誤差を有しているものの、原理的にはデータ処理過程で固有誤差は相殺される仕組みとなっている。しかしながら、測定対象が同一であるにもかかわらず、機器毎に表示値が異なるという特性を有していることから、機器を交換した際にキャリブレーションを行い、補正するというのが一般であった。

2. キャリブレーションの課題

ここでのキャリブレーションとは、同一条件下で異なる機器により得られた表示の差分を算出し、機器変更後の表示値にその差分を補正値として加減算する手法（以下、従来法と呼称）を指す。これは、各機器の表示値に機器固有の誤差以外の要因が含まれていないという仮定に基づき成立するものである。
しかし実際の測定では、同一条件下であっても偶然誤差（測定誤差等）が含まれる。そのため、キャリブレーションによってこれらの偶発的な誤差を含む差分を定数として加減算することは、解析結果（変位量）を真値よりさらに乖離させるリスクを有している。この不確かさを伴う点が，従来のキャリブレーション手法における課題であった。
こうした背景から、観測時における偶然誤差を加味すると、ある深度と孔底深度の差分値を測定値とし、交換前も交換後も同じ傾向を示すと仮定とし検証した。

3. 差分法（孔底法）

本手法では、解析にあたり各深度における測定値と孔底深度における測定値との差分値を算出する。この処理を全深度において行い、得られた値に対して従来のデータ処理を適用する。本報では、この解析手法を「差分法（孔底法）」と呼称する。

4. 検証と結果

実際の現場で得られる計測値には様々な誤差が含まれるが、本検証では、「機器毎に存在する誤差（以下、機器誤差：系統誤差）」及び「測定誤差（ランダム誤差）」の2種類の誤差のみを考慮することとした。
サンプルデータを用いて、従来法および差分法(孔底法)のそれぞれにおいて、傾斜計変動図を算出した。検証におけるパラメータ及び条件は次の通りである。

・深度範囲：0.5m毎（GL-0.5m～-5.0m）
・変位領域：GL-1.5m～-2.0m間を滑動による変位深度と仮定
（表-1参照，その他の深度は変位量0）
・誤差条件：各観測値に測定誤差（ランダム誤差）を含む
・機器交換：t3観測時に実施（機器交換による誤差は系統誤差（定数誤差）と仮定）

表-1 サンプル真値データ（単位：mm）

深度	t1	t2	t3	t4	t5
1.5m	0.00	0.15	0.30	0.45	0.60
2.0m	0.00	0.30	0.60	0.90	1.20

※上記以外の深度における真値の変位量は全て0とする。

上記の真値データに測定誤差（ランダム誤差）を加算したデータをサンプルとし、従来法と差分法（孔底法）それぞれで傾斜計変動図を作成した。

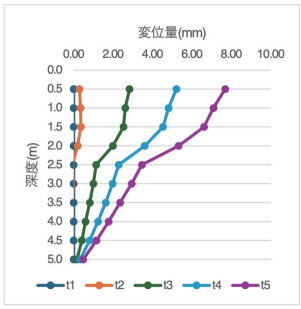


図-1 従来法の変動図

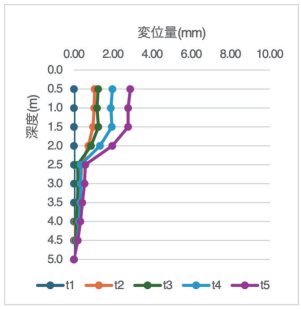


図-2 差分法(孔底法)の変動図

図-1：従来法の変動図(測定誤差の集積・加算により、変動図全体が傾いた形状を示す。)
図-2：差分法（孔底法）の変動図（変位深度以外の区間において、変動図が鉛直・直立した正しい形状を示す）

5. まとめ

以上より、同一観測孔において測定器の機器交換を行った際には、従来のキャリブレーション手法よりも「差分法（孔底法）」を用いることで、偶発誤差の影響を抑え、より信頼性の高い解析結果が得られると考えられる。ただし、本手法は機器交換に伴う誤差が定数誤差であることを前提として成立するものである。そのため、実際の機器交換時における誤差が定数誤差とみなせるか否かについては、今後さらに検証を重ねる必要があると考えられる。

引用文献
1)独立行政法人土木研究所(2010)：地すべり地における挿入式孔内傾斜計マニュアル

平 朝彦（たいら あさひこ）

東京大学名誉教授／東海大学海洋研究所所長

ご紹介

東北大学理学部を卒業後、テキサス大学ダラス校にて博士号を取得。高知大学助教授、東京大学海洋研究所教授を経て、2012 年より 2019 年まで国立研究開発法人・海洋研究開発機構（JAMSTEC）理事長を歴任。
プレートの沈み込みにともなう付加体形成のメカニズムを地質学的に解明し、日本列島の成り立ちに関する学説を刷新。さらに、地球深部探査船「ちきゅう」による南海トラフの科学掘削計画を主導し、巨大地震発生帯の構造解明において国際的に先導的役割を果たしてきた。

経　歴

1946 年　5 月 30 日生　宮城県仙台市出身
1970 年　東北大学 理学部 卒業
1976 年　テキサス大学ダラス校 大学院博士課程修了（Ph.D.）
1977 年　高知大学 理学部 助教授
1985 年　東京大学 海洋研究所 教授
2002 年　日本地質学会 会長（～2004）
2004 年　海洋研究開発機構（JAMSTEC）地球深部探査センター（CDEX）初代センター長
2012 年　海洋研究開発機構（JAMSTEC）理事長（～2019 年）
2019 年　海洋研究開発機構（JAMSTEC）顧問
2020 年　東海大学 海洋研究所 所長
2024 年　日本学士院会員

受 賞 歴

2006 年　日本地質学会賞
2007 年　日本学士院賞
2018 年　フランス政府 レジオン・ドヌール勲章 シュヴァリエ受章
2023 年　瑞宝中綬章

代 表 著 書

1990 年　**『日本列島の誕生』**／付加体論に基づく日本列島形成シナリオを平易に解説した代表作
2001 年　**地質学 1『地球のダイナミックス』**／地球科学の基礎概念を体系的に解説
2004 年　**地質学 2『地層の解読』**／地質学的な地層読解の手法を詳説
2007 年　**地質学 3『地球史の探求』**／地球 46 億年の歴史から、生命・気候・地殻変動の相互関係を探る
2020 年　**『カラー図解 地球科学入門』**／地質・地形・地球史を読み解く入門書（JAMSTEC 共同制作）
2022 年　**『人新世-科学技術で読み解く人間の地質時代-』**／人間活動が地球環境に与える影響と人類の未来を解説

一般社団法人 静岡県地質調査業協会

事務局
〒420-0937　静岡市葵区唐瀬1丁目17番34号 TEL.054-247-3316　FAX.054-246-9481
会長 松浦 好樹 (株)ジーベック 代表取締役

国土交通大臣登録	代表者	住所・電話・FAX
(株)富士和	土屋 靖司	〒422-8055　静岡市駿河区寿町12番43号 TEL.054-287-7070 FAX.054-287-3930
(株)ジーベック	松浦 好樹	〒420-0937　静岡市葵区唐瀬1丁目17番34号 TEL.054-246-7741 FAX.054-246-9481
日本エルダルト(株)	浅川 実	〒420-0068　静岡市葵区田町5丁目61番地 TEL.054-254-4571 FAX.054-221-0501
(株)建設コンサルタントセンター	中嶋 規人	〒424-0064　静岡市清水区長崎新田123番地 TEL.054-345-2155 FAX.054-348-2585
(株)グランドリサーチ	小暮 充範	〒421-0113　静岡市駿河区下川原5丁目4番5号 TEL.054-259-0939 FAX.054-258-8740
東洋地研(株)	山本 貢司	〒410-0001　沼津市足高551番地の5 TEL.055-921-4888 FAX.055-921-4898
土屋産業(株)	土屋 国彦	〒410-0888　沼津市末広町274番地 TEL.055-963-0590 FAX.055-963-0757
(株)東海建設コンサルタント	齋 秀之	〒410-0811　沼津市中瀬町5番1号 TEL.055-931-0625 FAX.055-932-7170
(株)中野地質	中野 雄介	〒425-0036　焼津市西小川2丁目5番地の17 TEL.054-627-1395 FAX.054-626-0699
静岡コンサルタント(株)	二村 繁晴	〒411-0804　三島市多呂128番地 TEL.055-977-8080 FAX.055-977-8731
(株)東日	芹澤 秀樹	〒410-0022　沼津市大岡2240番地の16 TEL.055-921-8053 FAX.055-924-8122
(株)フジヤマ	藤山 義修	〒430-0946　浜松市中央区元城町216番地の19 TEL.053-454-5892 FAX.053-455-4619
(株)ランドテクト	岡野 有紗	〒424-0038　静岡市清水区西久保1丁目5番16号 TEL.054-363-3270 FAX.054-363-2663
不二総合コンサルタント(株)	牧田 敏明	〒433-8112　浜松市中央区初生町889番地の2 TEL.053-439-6111 FAX.053-439-6129
昭和設計(株)	荒山 晃	〒420-0006　静岡市葵区若松町41番地の1 TEL.054-252-1820 FAX.054-252-1840

www.s-geo.com

GEO

ジオフォーラム 2026 in 静岡

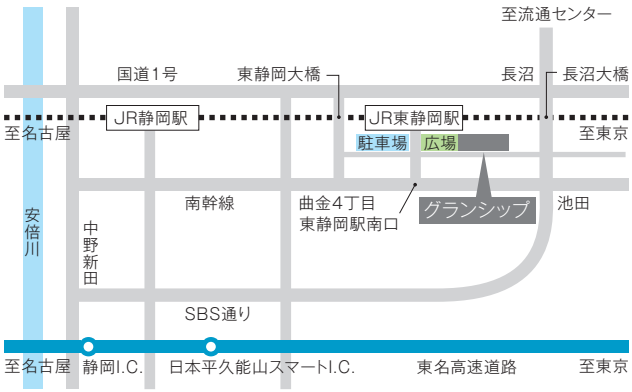
FORUM

2026

一般社団法人 静岡県地質調査業協会
TEL.054-247-3316　FAX.054-246-9481
info@s-geo.com
www.s-geo.com

グランシップ
静岡県静岡市駿河区東静岡2丁目3-1

会場のご案内



- 当日、駐車場はありませんので公共交通機関をご利用ください。

発表当日の資料は10月30日頃から協会HPに掲載します